

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2027年6月9日まで（2017年7月31日設定）	
運用方針	ワールド・ビューティー・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国のビューティー・ビジネス関連企業の株式に投資を行います。なお、ビューティー・ビジネス関連企業とは、委託会社の視点において、人の美しさの向上に寄与する事業などを行い、今後の美容関連市場における成長の恩恵を享受すると考えられる企業をいいます。株式への投資にあたっては、企業収益の成長性、財務の健全性、株価水準等を考慮して、銘柄選定を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要運用対象	ベ ビー ファンド	ワールド・ビューティー・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザー ファンド	日本を含む世界各国の株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベ ビー ファンド	株式への実質投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
	マザー ファンド	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。 原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円（10,000口当たり）を超えている場合には、当該超えている部分について、分配対象額の範囲内で、全額分配を行います。（資金動向や市況動向等により変更する場合があります。）	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

運用報告書（全体版）

ワールド・ビューティー・オープン（為替ヘッジなし）

第3期（決算日：2018年12月10日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
 さて、お手持ちの「ワールド・ビューティー・オープン（為替ヘッジなし）」は、去る12月10日に第3期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。
 今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル

0120-151034

（受付時間：営業日の9:00～17:00、
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

■ファンドマネージャーのコメント

当期の運用で主眼においたポイントをご説明させていただきます。

■投資環境

- ・当期の世界の株式市況は下落しました。期首から2018年9月末にかけては、米国を中心に企業業績の高まりなどが好感され上昇しました。しかし、9月末以降、米中間の通商問題を巡る不透明感などを背景に下落に転じました。
- ・主要通貨のうち米ドルは円に対して上昇した一方で、ユーロはほぼ横ばい、英ポンドは下落しました。

■運用のポイント

- ・安定的な成長が見込まれる美容関連市場の恩恵を最大限享受すると考えられる企業の取材を通じて選別しました。
- ・当ファンドでは、現在、アジアを中心とした新興国市場、高価格帯商品、スキンケアの3点に着目した運用を行っております。新興国の中でも特に中国は、経済成長が減速しながらも中間所得層の品質や機能性に対するこだわりから高価格帯商品を中心に高成長が続いています。また、先進国においても肌質を重視するトレンドが存在し機能性の高いスキンケア商品を中心に市場が拡大しています。
- ・肌に直接触れる製品は、品質や機能性だけではなく、ブランド力や生産地も合わせて重視される傾向があり、当ファンドが積極的に投資を行っている日本や欧米の大手化粧品銘柄への恩恵は大きいと判断しています。

■運用環境見通しおよび今後の運用方針

- ・美容関連市場は、化粧品を中心に先進国の経済成長を上回る成長が見込まれる市場です。
- ・当ファンドのポートフォリオ構築にあたっては、ビューティー・ビジネス関連企業が主に販売を行っている「地域」や、商品の「価格」、製品ブランド等の戦略を重点的に調査の上、美容関連市場の成長の恩恵を享受できると考えられる銘柄を中心に投資を行っています。今後も、企業収益の成長性、財務の健全性、株価水準等を考慮して、美容関連市場の成長の恩恵を受けると判断した銘柄を選定します。



株式会社運用部
ファンドマネージャー

安井 陽一郎 村山 信明 加藤 明 長田 直樹 小島 直人 飯田 太郎

本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 額
		税 分	込 配 金	騰 落 中 率			
(設定日)	円	円	%	%	%	百万円	
2017年7月31日	10,000	—	—	—	—	10	
1期(2017年12月11日)	10,001	1,147	11.5	88.6	—	634	
2期(2018年6月11日)	10,001	582	5.8	93.9	—	6,839	
3期(2018年12月10日)	8,956	0	△10.4	95.3	—	23,483	

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	式 率
		騰 落	率			
(期 首)	円	%	%	%	%	%
2018年6月11日	10,001	—	93.9	—	—	—
6月末	9,743	△ 2.6	95.8	—	—	—
7月末	9,762	△ 2.4	97.6	—	—	—
8月末	9,764	△ 2.4	96.4	—	—	—
9月末	10,194	1.9	97.5	—	—	—
10月末	8,885	△11.2	97.7	—	—	—
11月末	9,345	△ 6.6	96.6	—	—	—
(期 末)						
2018年12月10日	8,956	△10.4	95.3	—	—	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

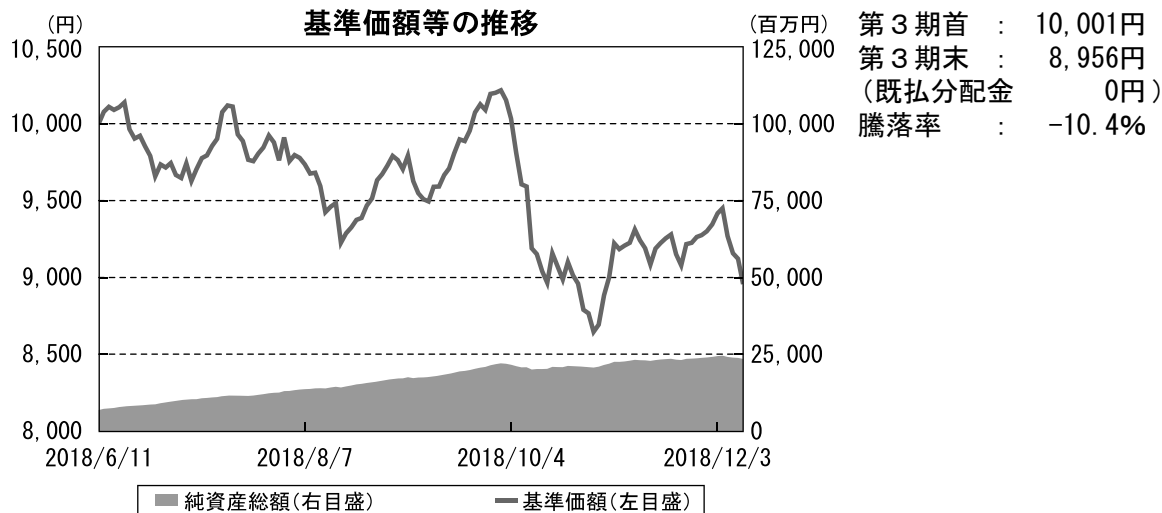
運用経過

当期中の基準価額等の推移について

（第3期：2018/6/12～2018/12/10）

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ10.4%の下落となりました。



・分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。



実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の主な変動要因

下落要因

世界主要国の株式市況が下落したことなどを背景に組入銘柄の株価が下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

投資環境について

（第3期：2018/6/12～2018/12/10）

◎株式市況

- ・当期の世界の株式市況は下落しました。期首から2018年9月末にかけては、米国を中心に企業業績の高まりなどが好感され上昇しました。しかし、9月末以降、米中間における貿易紛争の影響が先行きの世界景気を冷やす可能性が高まったことなどを背景に国際通貨基金（IMF）が世界経済見通しを下方修正したことや、トルコでのサウジアラビア人ジャーナリスト失踪問題を受けて地政学リスクが高まったことなどから下落に転じました。結果として、米中間の通商問題は期を通じて市況の変動を拡大させる要因となりました。

◎為替市況

- ・主要通貨のうち米ドルは円に対して上昇した一方で、ユーロはほぼ横ばい、英ポンドは下落しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

i 期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

<ワールド・ビューティー・オープン（為替ヘッジなし）>

- ・ワールド・ビューティー・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国のビューティー・ビジネス関連企業の株式に投資を行いました。

<ワールド・ビューティー・マザーファンド>

基準価額は期首に比べ9.7%の下落となりました。

- ・安定的な成長が見込まれる美容関連市場の恩恵を最大限享受すると考えられる企業の取材を通じて選別しました。
- ・当ファンドでは、現在、アジアを中心とした新興国市場、高価格帯商品、スキンケアの3点に着目した運用を行っております。新興国の中でも特に中国は、経済成長が減速しながらも中間所得層の品質や機能性に対するこだわりから高価格帯商品を中心に高成長が続いています。また、先進国においても肌質を重視するトレンドが存在し機能性の高いスキンケア商品を中心に市場が拡大しています。
- ・通貨別では、米ドルの比率が上昇し、ユーロやタイバーツ、豪ドルの比率が低下しました。
- ・組入銘柄数については株価の水準や成長性を勘案して投資対象の絞り込みを行い、期首の52銘柄から減少し期末は41銘柄となりました。

主な銘柄入替のポイントは以下の通りです。

◎新規組入銘柄

- ・APTARGROUP INC（米国、素材）：スプレーポンプ、ローションディスペンサーなどを製造し

ています。香水やスキンケア製品市場の拡大によって同社製品の需要が増加しています。また、点鼻薬など医薬品用途での需要も底堅いことから新規に組み入れを行いました。

- ・ PLANET FITNESS INC - CL A（米国、消費者サービス）：米国を中心に大衆向けのフィットネスクラブを運営しています。健康意識の高まりとリーズナブルな価格設定から新規入会者が増加しており、業績も拡大傾向が続いていることから新規に組み入れを行いました。

◎売却銘柄

- ・ COTY INC-CL A（米国、家庭用品・パーソナル用品）：米国の大手化粧品メーカーです。買収した化粧品ブランドとの統合がうまく進んでいないことに加えて、物流網の混乱から売り上げが低迷しました。期待していた統合効果が見えず、同社製品のブランド力も落ちてしていると判断し売却を行いました。
- ・ アイスタイル（日本、小売）：化粧品や美容の総合サイト「@cosme」の運営会社です。新しく立ち上げた化粧品ブランド向けマーケティング支援サービスの顧客獲得に注力しています。しかし、サーバー関連費用や広告宣伝などの投資が先行している上、新サービスの業績寄与がどれくらいになるのか不透明な部分が大きく、投資を継続するリスクが高いと考え売却を行いました。
- ・ 以上のような投資行動に加え、組み入れを高めている大手化粧品メーカーについては、中国における景気減速や並行輸入業者に対する新たな規制により、高価格帯商品を中心に需要の低下が懸念されました。そのため、株価は軟調となり基準価額は下落しました。パフォーマンスに寄与・影響した主な銘柄は以下の通りです。

（プラス要因）

◎銘柄

- ・ PROCTER & GAMBLE CO/THE（米国、家庭用品・パーソナル用品）：世界的な大手家庭用品メーカーです。高価格帯化粧品の「SK-II」が好調で業績の拡大傾向が続いています。米中間の通商問題など不透明な市場環境が続く中で同社の配当利回りの高さや事業安定性が評価され、株価は上昇しました。
- ・ JOHNSON & JOHNSON（米国、医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス）：世界的な医薬品メーカーですが、2018年10月に発表された日本のシーズ・ホールディングス買収などを通じて敏感肌用のスキンケア製品の強化を行っています。化粧品を含む消費者向け製品は極めて好調であり、医薬品事業などを含めた全体の業績が市場期待を上回る結果となったことなどから、株価は上昇しました。

（マイナス要因）

◎銘柄

- ・ 資生堂（日本、家庭用品・パーソナル用品）：メイクアップやスキンケアなどの製品を提供する大手化粧品メーカーです。中国の景気減速に伴うインバウンド需要に対する懸念や特定の売れ筋化粧品に対して供給が追い付かず機会損失が発生したことから株価は下落基

調で推移しました。しかし、同社の高価格帯化粧品に対する需要は強く、供給問題については、積極的な設備投資や需要変動への対応迅速化など対応策を打ち出していることから継続保有しています。

- ・コーセー（日本、家庭用品・パーソナル用品）：メイクアップやスキンケアなどの製品を提供する大手化粧品メーカーです。海外での販売網の構築が他の化粧品メーカーと比較して遅れており、日本における地震や台風などの自然災害に起因した訪日外国人観光客の減少による業績への悪影響が懸念され株価は軟調に推移しました。しかし、2018年10月の訪日観光客は再び増加に転じており、過度な懸念は徐々に払拭されるとみられることから継続保有しています。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ・当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。
- ・従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

分配金について

i 分配金の内訳および翌期繰越分配対象額（翌期に繰越す分配原資）がどの程度あるかを確認できます。

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、決定します。原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円（10,000口当たり）を超えている場合には、当該超えている部分について、分配対象額の範囲内で、全額分配を行います。（資金動向や市況動向等により変更する場合があります。）この結果、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第3期
	2018年6月12日～2018年12月10日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	5

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針（作成対象期間末での見解です。）

<ワールド・ビューティー・オープン（為替ヘッジなし）>

◎今後の運用方針

- ・マザーファンド受益証券を高位に組み入れる方針です。

<ワールド・ビューティー・マザーファンド>

◎運用環境の見通し

- ・足元では、景気の減速から中国などの新興国市場では高価で日常的には購入しない自動車や宝飾品を中心に需要の減退が確認されていますが、化粧品に関しては大きな影響を受けていません。肌に直接触れる製品は、品質や機能性だけではなく、ブランド力や生産地も合わせて重視される傾向があり、当ファンドが積極的に投資を行っている日本や欧米の大手化粧品銘柄への恩恵は大きいと判断しています。米中間の通商問題が懸念されますが、高級化粧品を中心に生産における中国依存度は低く、原価率も低いため相対的に影響は限定的であると考えられます。
- ・日本の化粧品メーカーについては、並行輸入業者に対する中国政府の規制が強化されたことにより、インバウンド需要の低下が懸念され、株価が軟調となる局面がありました。しかし、各社の2018年7-9月期決算では、台風や地震などによる影響を除けば日本製の高機能化粧品に対する需要は引き続き強く、今後の業績についても前向きなコメントが出てきています。実際に訪日外国人観光客数の回復を背景にインバウンド需要の継続的な拡大などが確認されるなど、懸念の払拭に向けて明るい兆しが見えつつあり、株価のサポート材料となりそうです。

◎今後の運用方針

- ・2018年の前半までは、世界経済全般が成長してきたこともあり、主要企業の業績は総じて拡大傾向となりました。しかし、足元では状況が変わりつつあります。米国では低い失業率や賃金上昇によって個人消費は好調な一方、関税引き上げなどによって企業は設備投資に対して慎重になっており、各企業の業績トレンドにも違いが現れています。しかしながら、美容関連市場は、歴史的に景気の好不調に左右されにくく、化粧品を中心に先進国の経済成長を上回る成長が見込まれる市場です。成長の源泉は、高齢化社会の進展に伴うアンチエイジング需要、新興国での所得増加による化粧品の普及など、社会構造の変化によるものであり、今後も安定的な成長が見込まれます。
- ・当ファンドのポートフォリオ構築にあたっては、ビューティー・ビジネス関連企業が主に販売を行っている「地域」や、商品の「価格」、製品ブランド等の戦略を重点的に調査の上、美容関連市場の成長の恩恵を享受できると考えられる銘柄を中心に投資を行っています。今後も、企業収益の成長性、財務の健全性、株価水準等を考慮して、美容関連市場の成長の恩恵を受けると判断した銘柄を選定します。

○ 1 万口当たりの費用明細

（2018年6月12日～2018年12月10日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	84	0.876	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× （期中の日数÷年間日数）
（ 投 信 会 社 ）	（ 41 ）	（ 0.428 ）	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（ 販 売 会 社 ）	（ 41 ）	（ 0.428 ）	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	（ 2 ）	（ 0.021 ）	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	14	0.146	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	（ 14 ）	（ 0.146 ）	有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	6	0.059	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	（ 6 ）	（ 0.059 ）	有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	1	0.009	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	（ 1 ）	（ 0.007 ）	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
（ 監 査 費 用 ）	（ 0 ）	（ 0.002 ）	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
（ そ の 他 ）	（ 0 ）	（ 0.000 ）	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	105	1.090	
期中の平均基準価額は、9,559円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

（2018年6月12日～2018年12月10日）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
ワールド・ビューティー・マザーファンド	16,037,806 千口	18,640,050 千円	— 千口	— 千円

○株式売買比率

（2018年6月12日～2018年12月10日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
	ワールド・ビューティー・マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	28,129,605千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	22,317,505千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.26

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

（2018年6月12日～2018年12月10日）

利害関係人との取引状況

<ワールド・ビューティー・オープン（為替ヘッジなし）>

該当事項はございません。

<ワールド・ビューティー・マザーファンド>

区分	買付額等 A	うち利害関係人との取引状況B		売付額等 C	うち利害関係人との取引状況D	
		百万円	%		百万円	%
株式	25,330	3,297	13.0	2,799	435	15.5
為替直物取引	13,920	1,893	13.6	170	—	—

平均保有割合 77.3%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	25,086千円
うち利害関係人への支払額 (B)	2,339千円
(B) / (A)	9.3%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ信託銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2018年12月10日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ワールド・ビューティー・マザーファンド	5,432,326	21,470,133	23,340,181

○投資信託財産の構成

(2018年12月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ワールド・ビューティー・マザーファンド	23,340,181	98.7
コール・ローン等、その他	316,614	1.3
投資信託財産総額	23,656,795	100.0

(注) ワールド・ビューティー・マザーファンドにおいて、期末における外貨建純資産（18,456,236千円）の投資信託財産総額（29,697,707千円）に対する比率は62.1%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 アメリカドル=112.52円	1 ユーロ=128.35円	1 イギリスポンド=143.14円	1 スイスフラン=113.66円
1 ノルウェークローネ=13.24円	1 オーストラリアドル=81.01円	1 香港ドル=14.40円	100韓国ウォン=10.02円

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2018年12月10日現在）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	23,656,795,518
コール・ローン等	316,613,854
ワールド・ビューティ・マザーファンド(評価額)	23,340,181,664
(B) 負債	173,101,436
未払解約金	22,660,196
未払信託報酬	150,156,167
未払利息	632
その他未払費用	284,441
(C) 純資産総額(A-B)	23,483,694,082
元本	26,222,246,401
次期繰越損益金	△ 2,738,552,319
(D) 受益権総口数	26,222,246,401口
1万口当たり基準価額(C/D)	8,956円

<注記事項>

- ①期首元本額 6,839,211,616円
 期中追加設定元本額 20,555,450,028円
 期中一部解約元本額 1,172,415,243円
 また、1口当たり純資産額は、期末0.8956円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は2,738,552,319円です。

③分配金の計算過程

項 目	2018年6月12日～ 2018年12月10日
費用控除後の配当等収益額	－円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	－円
収益調整金額	14,518,669円
分配準備積立金額	5,881円
当ファンドの分配対象収益額	14,524,550円
1万口当たり収益分配対象額	5円
1万口当たり分配金額	－円
収益分配金金額	－円

○損益の状況（2018年6月12日～2018年12月10日）

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 56,537
受取利息	239
支払利息	△ 56,776
(B) 有価証券売買損益	△1,840,116,593
売買益	14,317,640
売買損	△1,854,434,233
(C) 信託報酬等	△ 150,440,608
(D) 当期繰越損益金(A+B+C)	△1,990,613,738
(E) 前期繰越損益金	5,881
(F) 追加信託差損益金	△ 747,944,462
(配当等相当額)	(△ 4,722)
(売買損益相当額)	(△ 747,939,740)
(G) 計(D+E+F)	△2,738,552,319
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△2,738,552,319
追加信託差損益金	△ 747,944,462
(配当等相当額)	(14,518,669)
(売買損益相当額)	(△ 762,463,131)
分配準備積立金	5,881
繰越損益金	△1,990,613,738

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

【お知らせ】

2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。）の税率が適用されます。

ワールド・ビューティー・マザーファンド

《第3期》決算日2018年12月10日

[計算期間：2018年6月12日～2018年12月10日]

「ワールド・ビューティー・マザーファンド」は、12月10日に第3期の決算を行いました。
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第3期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	主として日本を含む世界各国のビューティー・ビジネス関連企業の株式に投資を行います。なお、ビューティー・ビジネス関連企業とは、委託会社の視点において、人の美しさの向上に寄与する事業などを行い、今後の美容関連市場における成長の恩恵を享受すると考えられる企業をいいます。株式への投資にあたっては、企業収益の成長性、財務の健全性、株価水準等を考慮して、銘柄選定を行います。株式の組入比率は高位を維持することを基本とします。組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主 要 運 用 対 象	日本を含む世界各国の株式を主要投資対象とします。
主 な 組 入 制 限	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資割合に制限を設けません。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	期 騰 落 中 率		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 総 額
		騰	落			
(設定日)	円		%	%	%	百万円
2017年7月31日	10,000		—	—	—	297
1期(2017年12月11日)	11,279		12.8	93.1	—	1,304
2期(2018年6月11日)	12,043		6.8	98.2	—	8,647
3期(2018年12月10日)	10,871		△ 9.7	95.8	—	29,697

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額 騰 落 率	株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
(期 首) 2018年6月11日	円 12,043	% —	% 98.2
6月末	11,741	△ 2.5	96.3
7月末	11,779	△ 2.2	98.1
8月末	11,799	△ 2.0	96.9
9月末	12,345	2.5	98.0
10月末	10,764	△10.6	98.3
11月末	11,343	△ 5.8	97.2
(期 末) 2018年12月10日	円 10,871	△ 9.7	95.8

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

○運用経過

●当期中の基準価額等の推移について

◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ9.7%の下落となりました。

基準価額等の推移



●投資環境について

◎株式市況

・当期の世界の株式市況は下落しました。期首から2018年9月末にかけては、米国を中心に企業業績の高まりなどが好感され上昇しました。しかし、9月末以降、米中間における貿易紛争の影響が先行きの世界景気を冷やす可能性が高まったことなどを背景に国際通貨基金（IMF）が世界経済見通しを下方修正したことや、トルコでのサウジアラビア人ジャーナリスト失踪問題を受けて地政学リスクが高まったことなどから下落に転じました。結果として、米中間の通商問題は期を通じて市況の変動を拡大させる要因となりました。

◎為替市況

・主要通貨のうち米ドルは円に対して上昇した一方で、ユーロはほぼ横ばい、英ポンドは下落しました。

- 当該投資信託のポートフォリオについて
 - ・安定的な成長が見込まれる美容関連市場の恩恵を最大限享受すると考えられる企業の取材を通じて選別しました。
 - ・当ファンドでは、現在、アジアを中心とした新興国市場、高価格帯商品、スキンケアの3点に着目した運用を行っております。新興国の中でも特に中国は、経済成長が減速しながらも中間所得層の品質や機能性に対するこだわりから高価格帯商品を中心に高成長が続いています。また、先進国においても肌質を重視するトレンドが存在し機能性の高いスキンケア商品を中心に市場が拡大しています。
 - ・通貨別では、米ドルの比率が上昇し、ユーロやタイバツ、豪ドルの比率が低下しました。
 - ・組入銘柄数については株価の水準や成長性を勘案して投資対象の絞り込みを行い、期首の52銘柄から減少し期末は41銘柄となりました。

主な銘柄入替のポイントは以下の通りです。

◎新規組入銘柄

- ・APTARGROUP INC (米国、素材): スプレーポンプ、ローションディスペンサーなどを製造しています。香水やスキンケア製品市場の拡大によって同社製品の需要が増加しています。また、点鼻薬など医薬品用途での需要も底堅いことから新規に組み入れを行いました。
- ・PLANET FITNESS INC - CL A (米国、消費者サービス): 米国を中心に大衆向けのフィットネスクラブを運営しています。健康意識の高まりとリーズナブルな価格設定から新規入会者が増加しており、業績も拡大傾向が続いていることから新規に組み入れを行いました。

◎売却銘柄

- ・COTY INC-CL A (米国、家庭用品・パーソナル用品): 米国の大手化粧品メーカーです。買収した化粧品ブランドとの統合がうまく進んでいないことに加えて、物流網の混乱から売り上げが低

迷しました。期待していた統合効果がみえず、同社製品のブランド力も落ちていると判断し売却を行いました。

- ・アイスタイル (日本、小売): 化粧品や美容の総合サイト「@cosme」の運営会社です。新しく立ち上げた化粧品ブランド向けマーケティング支援サービスの顧客獲得に注力しています。しかし、サーバー関連費用や広告宣伝などの投資が先行している上、新サービスの業績寄与がどれくらいになるのか不透明な部分が大きく、投資を継続するリスクが高いと考え売却を行いました。
- ・以上のような投資行動に加え、組み入れを高めている大手化粧品メーカーについては、中国における景気減速や並行輸入業者に対する新たな規制により、高価格帯商品を中心に需要の低下が懸念されました。そのため、株価は軟調となり基準価額は下落しました。パフォーマンスに寄与・影響した主な銘柄は以下の通りです。

(プラス要因)

◎銘柄

- ・PROCTER & GAMBLE CO/THE (米国、家庭用品・パーソナル用品): 世界的な大手家庭用品メーカーです。高価格帯化粧品の「SK-II」が好調で業績の拡大傾向が続いています。米中間の通商問題など不透明な市場環境が続く中で同社の配当利回りの高さや事業安定性が評価され、株価は上昇しました。
- ・JOHNSON & JOHNSON (米国、医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス): 世界的な医薬品メーカーですが、2018年10月に発表された日本のシーズ・ホールディングス買収などを通じて敏感肌用のスキンケア製品の強化を行っていません。化粧品を含む消費者向け製品は極めて好調であり、医薬品事業などを含めた全体の業績が市場期待を上回る結果となったことなどから、株価は上昇しました。

(マイナス要因)

◎銘柄

- ・資生堂（日本、家庭用品・パーソナル用品）：メイクアップやスキンケアなどの製品を提供する大手化粧品メーカーです。中国の景気減速に伴うインバウンド需要に対する懸念や特定の売れ筋化粧品に対して供給が追いつかず機会損失が発生したことから株価は下落基調で推移しました。しかし、同社の高価格帯化粧品に対する需要は強く、供給問題については、積極的な設備投資や需要変動への対応迅速化など対応策を打ち出していることから継続保有しています。
- ・コーセー（日本、家庭用品・パーソナル用品）：メイクアップやスキンケアなどの製品を提供する大手化粧品メーカーです。海外での販売網の構築が他の化粧品メーカーと比較して遅れており、日本における地震や台風などの自然災害に起因した訪日外国人観光客の減少による業績への悪影響が懸念され株価は軟調に推移しました。しかし、2018年10月の訪日観光客は再び増加に転じており、過度な懸念は徐々に払拭されるとみられることから継続保有しています。

◎今後の運用方針

◎運用環境の見通し

- ・足元では、景気の減速から中国などの新興国市場では高価で日常的には購入しない自動車や宝飾品を中心に需要の減退が確認されていますが、化粧品に関しては大きな影響を受けていません。肌に直接触れる製品は、品質や機能性だけではなく、ブランド力や生産地も合わせて重視される傾向があり、当ファンドが積極的に投資を行っている日本や欧米の大手化粧品銘柄への恩恵は大きいと判断しています。米中間の通商問題が懸念されますが、高級化粧品を中心に生産における中国依存度は低く、原価率も低いため相対的に影響は限定的であると考えられます。

- ・日本の化粧品メーカーについては、並行輸入業者に対する中国政府の規制が強化されたことにより、インバウンド需要の低下が懸念され、株価が軟調となる局面がありました。しかし、各社の2018年7-9月期決算では、台風や地震などによる影響を除けば日本製の高機能化粧品に対する需要は引き続き強く、今後の業績についても前向きなコメントが出てきています。実際に訪日外国人観光客数の回復を背景にインバウンド需要の継続的な拡大などが確認されるなど、懸念の払拭に向けて明るい兆しが見えつつあり、株価のサポート材料となりそうです。

◎今後の運用方針

- ・2018年の前半までは、世界経済全般が成長してきたこともあり、主要企業の業績は総じて拡大傾向となりました。しかし、足元では状況が変わりつつあります。米国では低い失業率や賃金上昇によって個人消費は好調な一方、関税引き上げなどによって企業は設備投資に対して慎重になっており、各企業の業績トレンドにも違いが現れています。しかしながら、美容関連市場は、歴史的に景気の好不調に左右されにくく、化粧品を中心に先進国の経済成長を上回る成長が見込まれる市場です。成長の源泉は、高齢化社会の進展に伴うアンチエイジング需要、新興国での所得増加による化粧品の普及など、社会構造の変化によるものであり、今後も安定的な成長が見込まれます。
- ・当ファンドのポートフォリオ構築にあたっては、ビューティー・ビジネス関連企業が主に販売を行っている「地域」や、商品の「価格」、製品ブランド等の戦略を重点的に調査の上、美容関連市場の成長の恩恵を享受できると考えられる銘柄を中心に投資を行っています。今後も、企業収益の成長性、財務の健全性、株価水準等を考慮して、美容関連市場の成長の恩恵を受けると判断した銘柄を選定します。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2018年6月12日～2018年12月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 17 (17)	% 0.148 (0.148)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	7 (7)	0.059 (0.059)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	1 (1) (0)	0.007 (0.007) (0.000)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	25	0.214	
期中の平均基準価額は、11,557円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2018年6月12日～2018年12月10日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国内	上場	千株 1,859 (292)	千円 9,665,181 (-)	千株 504	千円 935,426
	アメリカ	百株 13,843 (-)	千アメリカドル 85,442 (△ 63)	百株 7,487	千アメリカドル 12,545
外	ユーロ		千ユーロ		千ユーロ
	ドイツ	1,277	11,218	167	1,815
	フランス	981 (11)	11,904 (-)	32	669
国	イギリス	2,376	千イギリスポンド 11,734	-	千イギリスポンド -
	スイス	861	千スイスフラン 10,540	-	千スイスフラン -
	ノルウェー	1,119	千ノルウェークローネ 9,296	-	千ノルウェークローネ -
	オーストラリア	550	千オーストラリアドル 318	2,178	千オーストラリアドル 717
	香港	1,450	千香港ドル 1,958	-	千香港ドル -
	タイ	-	千タイバーツ -	18,074	千タイバーツ 18,685
	韓国	1	千韓国ウォン 245,461	-	千韓国ウォン -

(注) 金額は受渡代金。

(注) ()内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○株式売買比率

(2018年6月12日～2018年12月10日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	28,129,605千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	22,317,505千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.26

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2018年6月12日～2018年12月10日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$ %	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$ %
株式	百万円 25,330	百万円 3,297	13.0	百万円 2,799	百万円 435	15.5
為替直物取引	13,920	1,893	13.6	170	—	—

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	32,774千円
うち利害関係人への支払額 (B)	3,042千円
(B) / (A)	9.3%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJ信託銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

○組入資産の明細

(2018年12月10日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
食料品 (3.8%)				
ヤクルト本社	5.5	46.6	388,644	
繊維製品 (－%)				
グンゼ	12.3	—	—	
ワコールホールディングス	10.7	—	—	
化学 (92.0%)				
テイカ	46.7	—	—	
竹本容器	—	32.4	95,158	
花王	24.5	98.7	806,872	
資生堂	70.6	335.9	2,362,720	
ライオン	34.7	208.5	464,538	
マンダム	50.3	192.4	598,364	
ミルボン	10.8	120.8	588,900	
ファンケル	42.4	585.4	1,653,169	
コーセー	17.6	68.4	1,123,128	
コタ	9.4	—	—	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
シーズ・ホールディングス	6.1	—	—	
ポーラ・オルビスホールディングス	71.2	314	936,976	
ノエビアホールディングス	7.8	47.7	237,546	
小林製薬	3.2	57	420,090	
医薬品 (4.2%)				
ロート製薬	33.8	125	421,250	
電気機器 (－%)				
ヤママン	18.6	—	—	
情報・通信業 (－%)				
アイスタイル	108.1	—	—	
合 計	株 数・金 額	584	2,232	10,097,357
	銘柄数<比率>	19	13	<34.0%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
 (注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

外国株式

銘柄	株数	株数	期末		業種等	
			評価額			
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(アメリカ)	百株	百株	千アメリカドル	千円		
COLGATE-PALMOLIVE CO	203	808	5,071	570,600	家庭用品・パーソナル用品	
ESTEE LAUDER COMPANIES-CL A	372	1,358	18,629	2,096,148	家庭用品・パーソナル用品	
INTL FLAVORS & FRAGRANCES	107	339	4,652	523,486	素材	
JOHNSON & JOHNSON	130	452	6,577	740,068	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
KIMBERLY-CLARK CORP	91	—	—	—	家庭用品・パーソナル用品	
L BRANDS INC	176	—	—	—	小売	
PROCTER & GAMBLE CO/THE	181	949	8,782	988,214	家庭用品・パーソナル用品	
CLOROX COMPANY	71	229	3,732	419,972	家庭用品・パーソナル用品	
ALIGN TECHNOLOGY INC	91	422	8,882	999,475	ヘルスケア機器・サービス	
NUTRISYSTEM INC	355	770	2,634	296,410	小売	
ULTA BEAUTY INC	90	341	8,691	977,958	小売	
CHURCH & DWIGHT CO INC	142	229	1,533	172,600	家庭用品・パーソナル用品	
MEDIFAST INC	17	—	—	—	家庭用品・パーソナル用品	
COTY INC-CL A	1,162	—	—	—	家庭用品・パーソナル用品	
REVLON INC-CLASS A	66	—	—	—	家庭用品・パーソナル用品	
REGIS CORP	71	—	—	—	消費者サービス	
MINDBODY INC - CLASS A	—	1,400	3,587	403,653	ソフトウェア・サービス	
APTARGROUP INC	—	943	9,408	1,058,623	素材	
PLANET FITNESS INC - CL A	—	1,442	7,708	867,409	消費者サービス	
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	3,332 16	9,688 13	89,891 —	10,114,622 <34.1%>	
(ユーロ…ドイツ)			千ユーロ			
HENKEL AG & CO KGAA VORZUG	121	—	—	—	家庭用品・パーソナル用品	
BEIERSDORF AG	319	961	9,065	1,163,582	家庭用品・パーソナル用品	
SYMRISE AG	—	589	4,200	539,166	素材	
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	440 2	1,550 2	13,266 —	1,702,748 <5.7%>	
(ユーロ…フランス)						
LVMH MOET HENNESSY LOUIS VUI	55	223	5,576	715,785	耐久消費財・アパレル	
L'OREAL	163	373	7,702	988,568	家庭用品・パーソナル用品	
INTERPARFUMS SA	112	695	2,461	315,902	家庭用品・パーソナル用品	
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	331 3	1,292 3	15,740 —	2,020,256 <6.8%>	
ユーロ計	株数・金額 銘柄数<比率>	772 5	2,843 5	29,006 —	3,723,004 <12.5%>	
(イギリス)			千イギリスポンド			
UNILEVER PLC	358	1,290	5,498	787,083	家庭用品・パーソナル用品	
RECKITT BENCKISER GROUP PLC	172	596	3,742	535,670	家庭用品・パーソナル用品	
CRODA INTERNATIONAL PLC	524	1,544	7,222	1,033,782	素材	
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	1,055 3	3,431 3	16,463 —	2,356,536 <7.9%>	
(スイス)			千スイスフラン			
GIVAUDAN-REG	10	40	9,861	1,120,879	素材	
NOVARTIS AG-REG	149	276	2,405	273,454	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	
CLARIANT AG-REG	147	663	1,260	143,240	素材	
DKSH HOLDING AG	154	342	2,279	259,061	商業・専門サービス	
小計	株数・金額 銘柄数<比率>	462 4	1,323 4	15,807 —	1,796,636 <6.0%>	

銘柄	株数	当 期 末		業 種 等	
		株 数	評 価 額		
(ノルウェー) BORREGAARD ASA	百株 1,142	百株 2,261	千ノルウェークローネ 17,416	千円 230,599	素材
小 計	株数・金額 1,142	株数・金額 2,261	外貨建金額 17,416	邦貨換算金額 230,599	
	銘柄数<比率> 1	1	—	<0.8%>	
(オーストラリア) BWX LTD	1,628	—	千オーストラリアドル —	—	家庭用品・パーソナル用品
小 計	株数・金額 1,628	—	—	—	
	銘柄数<比率> 1	—	—	<—%>	
(香港) L'OCCITANE INTERNATIONAL SA	2,852	4,302	千香港ドル 6,023	86,738	小売
小 計	株数・金額 2,852	株数・金額 4,302	外貨建金額 6,023	邦貨換算金額 86,738	
	銘柄数<比率> 1	1	—	<0.3%>	
(タイ) BEAUTY COMMUNITY PCL-NVDR	18,074	—	千タイバーツ —	—	小売
小 計	株数・金額 18,074	—	—	—	
	銘柄数<比率> 1	—	—	<—%>	
(韓国) LG HOUSEHOLD & HEALTH CARE	3	4	千韓国ウォン 555,832	55,694	家庭用品・パーソナル用品
小 計	株数・金額 3	株数・金額 4	外貨建金額 555,832	邦貨換算金額 55,694	
	銘柄数<比率> 1	1	—	<0.2%>	
合 計	株数・金額 29,323	株数・金額 23,856	外貨建金額 —	邦貨換算金額 18,363,832	
	銘柄数<比率> 33	28	—	<61.8%>	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 邦貨換算金額欄の< >内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

○投資信託財産の構成

(2018年12月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 28,461,189	% 95.8
コール・ローン等、その他	1,236,518	4.2
投資信託財産総額	29,697,707	100.0

(注) 期末における外貨建純資産 (18,456,236千円) の投資信託財産総額 (29,697,707千円) に対する比率は62.1%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 アメリカドル=112.52円	1 ユーロ=128.35円	1 イギリスポンド=143.14円	1 スイスフラン=113.66円
1 ノルウェークローネ=13.24円	1 オーストラリアドル=81.01円	1 香港ドル=14.40円	100韓国ウォン=10.02円

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2018年12月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	29,697,707,483
コール・ローン等	1,226,479,604
株式(評価額)	28,461,189,871
未収配当金	10,038,008
(B) 負債	4,207
未払利息	2,286
その他未払費用	1,921
(C) 純資産総額(A-B)	29,697,703,276
元本	27,317,989,213
次期繰越損益金	2,379,714,063
(D) 受益権総口数	27,317,989,213口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,871円

<注記事項>

- ①期首元本額 7,180,371,219円
 期中追加設定元本額 20,175,421,724円
 期中一部解約元本額 37,803,730円
 また、1口当たり純資産額は、期末1.0871円です。

②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

ワールド・ビューティー・オープン(為替ヘッジあり)	5,847,856,139円
ワールド・ビューティー・オープン(為替ヘッジなし)	21,470,133,074円
合計	27,317,989,213円

○損益の状況 (2018年6月12日～2018年12月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	105,306,538
受取配当金	105,561,000
受取利息	76,402
その他収益金	811
支払利息	△ 331,675
(B) 有価証券売買損益	△2,503,523,575
売買益	806,470,800
売買損	△3,309,994,375
(C) 保管費用等	△ 1,570,921
(D) 当期損益金(A+B+C)	△2,399,787,958
(E) 前期繰越損益金	1,466,900,015
(F) 追加信託差損益金	3,314,938,276
(G) 解約差損益金	△ 2,336,270
(H) 計(D+E+F+G)	2,379,714,063
次期繰越損益金(H)	2,379,714,063

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。